

御殿場 夢をツナグまちプロジェクト



生まれ育ったこの町に
恩返しをしたい。
御殿場の子どもたちに
安心と笑顔届けたい。
夢は小さな未来を
そっと支えること。
「おかえり」が聞こえる町で
子どもたちと生きていきたい。
御殿場の高校生

子供の笑顔で
明日も頑張ろう
と思える。

保育士になって
御殿場を
支えたい。



子供が好きだから続けられる
手をいっぱい広げて
飛び込んで来くる園児の姿が
日々のエネルギーになる
一番の魅力は園児の成長を
間近で感じられること
園児と安全に一日を
過ごすことが
使命でありやりがい

みなみ保育園 職員

掛本 萌衣(かけもとめい) 静岡県立御殿場南高等学校 2年
 柴田 紘希(しばたひろき) 静岡県立御殿場南高等学校 2年
 鈴木 颯士郎(すずき そうしろう) 静岡県立御殿場南高等学校 2年
 勝又 朝日(かつまたあさひ) 静岡県立御殿場南高等学校 2年

活動概要

活動の内容

①栃木県那珂川町を訪問：地域探究の工夫や課題解決の方法について意見交換を行った。②高校生へアンケートの実施：御殿場南高校2年145名にアンケートを行い、結果から夢と地域のつながりや課題を分析した。③ポスター制作：地域で働く人と高校生にインタビューを行い、夢と仕事への「思い」をつなぐポスターを制作した。インタビューの対象として高校生は御殿場南高校の生徒、地域で働く人は教員や保育士さんなど、御殿場市役所の協力をいただきお願いした。④ポスターの展示：学校にポスターを展示して観てもらい意見をいただいた。

活動の特徴(新規性・発展性)

活動の特徴は2つあります。1つ目は「夢」という自分の内面を表現して、1枚のポスターにする点です。自分の夢への「思い」を多くの方に応援してもらうことに繋がると考えます。2つ目は地域と高校生とのつながりを可視化できる点です。地域と高校生の関係性を「出会いのデザイン」として再構築することで、高校生にとって将来の選択肢の幅を広げるきっかけとなり、御殿場市の将来の担い手への期待が向上すると考えられます。

活動の成果

那珂川町のフィールドワークを通して得た学びをもとに、高校生と地域の大人をつなぐ「出会いの場」を具体的に設計し、ポスターとして可視化することができました。また地域で働いている方へインタビューしたことで、地域で働く魅力や多様な職の存在が広く共有され、課題解決に大きく近づくことができました。結果、地域での働き方を身近に感じられる環境づくりを進め、帰属意識向上という変化を生み出すことができたと考えます。

課題の設定と意図

私たちは、御殿場市において「地元と若者が職業を通して出会う機会が十分に確保されていない」という点に課題を感じました。御殿場市では主要産業として農業・観光業・製造業が根付いていますが、高校生がそれらの仕事に触れる機会は多くありません。そのため若者が地域の産業を魅力的に感じにくい状況があると考えました。また市外への進学や就職が一般的になる中で、「将来自分が御殿場で働く姿」を具体的に想像する場面が減っていることも、地元離れが進む一因になっていると考えます。こうした背景から、私たちは「若者と地域の仕事が出会うきっかけ」を生み出すことが必要だと考えました。地域で活躍する大人の思いや働き方を知ることで高校生が地域の魅力を再発見し、自分の夢や進路を地域と結びつけて考えるきっかけが生まれるのではないかと考えたためです。また地域側にとっても高校生の関心や価値観を知る機会となり、互いの理解が深まることで新しい関係性が築かれる可能性があります。これらの理由から、私たちは高校生と地域で働く人をつなぐ仕組みづくりに取り組み、「働くことの魅力」と「地域で生きる姿」を見える形で発信する活動を進めることにしました。

課題解決のための仮説と計画

私たちは「若者が地域で働く姿を具体的に想像しにくいこと」が、御殿場市の担い手不足の背景にあるのではないかと考えました。地域には多様な職業や魅力的な大人の生き方があるものの、高校生がそれらに触れる機会は限られています。そこで私たちは「高校生が地域で働く大人の姿を知り、その思いや価値観に触れることができれば、地域で働くことのイメージが具体化し、未来を地域と結びつけて考えるようになるのではないか」という仮説を立てました。この仮説に基づき、当初は情報発信型の取り組みを検討していました。しかし、那珂川町のフィールドワークを通して「一方的な情報提供よりも、人と人の出会いをつくるのが意識変容につながる」ことに気づき、計画を見直すことにしました。

そこで、地域の大人の「思い」と高校生の「夢」を直接つなぐ仕組みとして、「夢をツナグまちポスター」の制作を中心とした実践への計画を立てました。ポスター制作では、高校生へのインタビューと地域で働く大人へのインタビューを行い、「どのような夢を持ち、なぜその仕事を選び、どんな価値を大切に働いているのか」といった物語を丁寧に聞き取ります。この対話こそが、若者が地域の仕事をより深く理解し、自分との共通点や新しい視点に気づく重要な機会になると考えています。また、完成したポスターを掲示することで、高校生のみならず地域全体が「働くこと」と「まち」を新しい角度から捉え直すきっかけを広げます。さらに、ポスターの制作にとどまらず、地域の大人と高校生が直接語り合う対話イベントの開催も計画に加えしました。これにより、若者が地域の未来を共に考え、地域の側も若者の価値観を理解する双方向の場を生み出します。

このように私たちは、「出会いの創出」を大切に、地域と若者の関係を実感として結びつける活動を目指しました。

活動で工夫できたこと

私たちは、この活動を進めるうえで、インタビューの方法、ポスターのデザイン、アンケートの工夫という三つの点で、特に創意工夫を行うことができました。まず、インタビューでは「相手との会話を大切にすること」を重視しました。高校生や地域で働く方のお話を丁寧に聞き取り、言葉の背景にある思いや価値観を理解する必要があります。しかし、当初は質問を一方的に読み上げるだけの形式的な聞き方になってしまい、相手の魅力を十分に引き出すことができませんでした。そこで、質問を軸にしつつも会話として自然に続くよう、相槌や表情を意識し、相手の話から新たな問いをつくる姿勢を大切にしました。こうした工夫により、互いに笑顔で話せる場が生まれ、より深い言葉を引き出すことができました。次に、ポスター制作では「見る人の注意を惹くデザイン」と「メッセージの一貫性」に力を入れました。写真は大きく配置し、地域の大人の表情や高校生の姿が印象に残るように工夫しました。また、複数枚を並べて掲示することを想定し、写真の大きさや配置が揃うように細部まで丁寧に調整しました。ロゴは、活動のテーマである「つながり」や「まち」を象徴できる案をメンバーで検討して選びました。さらに、ポスターに載せる言葉は、インタビューを通して印象に残ったフレーズや、相手大切にしている価値が伝わる言葉を採用し、高校生と地域の大人の内容が自然に呼応するよう工夫しました。最後に、アンケートでは「答えやすさ」を重視しました。協力を得るためには、短時間で回答でき、心理的負担の少ない形式にする必要があると考え、5～10分程度で終わられるシンプルな設問に調整しました。特に「夢」という個人的なテーマを扱うため、回答者が話やすく、自分の気持ちを整理しやすい質問の流れを意識しました。これらの工夫により、多くの人の協力を得ながら、地域と若者のつながりを実感できる実践を進めました。



活動メンバー



那珂川町のフィールドワーク

掛本 萌衣

この活動を行うなかで、私は様々な人と出会い、様々な考え方や視点を持つことができました。私がこの活動を通して学んだことは、主に3つあります。

1つ目は、インタビューの仕方についてです。私たちの活動は、高校生と地域の方にインタビューをすることが大切になっていきます。最初は質問と返答を繰り返して一方的になってしまい、私の中で課題として挙がっていました。そこで、何人かにインタビューをさせていたなかで、相手が答えやすい質問の仕方や内容を考えて、答えやすい雰囲気を作るように心がけました。また、会話になるように意識し、相手の返答をさらに深掘りするような質問をするようにしました。特に、相手が話をしたいと思ってくれるように、相手の顔を見て話をしたり、相槌を打ちながら話を聞くように意識しました。それによって相手との間に自然と笑顔が増え、よりたくさん話を聞くことができました。このことから、ただ自分が聞きたい内容だけを質問するのではなく、相手が答えやすい聞き方や、相手に聞いてもらいやすい話し方などを意識し、身につけることができました。

2つ目は、「夢」についてです。私には、将来保育士になりたいという大きな夢があります。私は、この活動が夢に向かっていく力になると思っています。この活動は多くの人の夢について知ることができ、逆に自分の夢を多くの人に応援してもらえるチャンスでもあったからです。活動の中で私たちは、高校生の持っている夢や思いに間近に触れてきました。夢というのは、私たち高校生にとって一つの大きな目標であり、人生における中間地点でもあります。活動をしていく中で様々な人の夢や思いを聞き取り、「ポスター」という目に見える形にすることができたことに、とても達成感を感じています。また、インタビューやアンケートを通して、自分にはなかった考え方を持つことができました。同時に、今まで自分の中にあつた選択肢をより広げることができました。

3つ目は、人との「つながり」です。この活動では、高校生だけでなく地域の方からの協力が必要不可欠になっていきます。そんな中で、今までの活動の中で出会った方にインタビューの依頼をしたり、御殿場市役所の方をお願いして高校生の夢とマッチする地域の人を探していただいたりと、多くの方にご協力いただきました。これは、今までの私たちの活動があったからこそ成果だと思えます。自分の力だけでできることのほうが少ない私たちは、多くの周りの方々の手を借りることが大切だと改めて感じ、人と人とのつながりを大切にすべきだと知ることができました。

今後の私たちの展望として、ポスター制作だけでなく、「リアルな交流の場」を設けたいと考えています。ポスターだけでは、高校生と地域の人との直接的な関わりが希薄になってしまうため、実際に交流する機会が必要だと考えています。高校生は実際に夢を実現している人に会うことで、より自分の夢の具体性が増し、夢の実現に一步近づけるのではないかと思います。また、地域の人としては、自分の働いている職業に就きたいと思っている高校生と関わることで、「この職業をやりたいと思ってくれる人があるんだ」という嬉しい気持ちや、応援したい気持ちになることができ、御殿場市の将来に少しでも希望を持ってもらえると思います。この活動が私自身の夢を後押しするだけでなく、高校生や地域の人にとっても未来に進む力となったら良いと考えています。これからも、今まで関わってきた一人ひとりの思いや言葉を大切にしながら、高校生と地域の人が出会える機会をたくさんつくりたいです。

柴田 紘希

私は前年度に引き続き、活動を行ってきました。その中には、まさに本活動の目的の一つである、多くの人との「出会い」がありました。様々な人と交流することで、自分にはなかった考えや視点に出会い、より多くの学びを得ることができました。その中で、本活動を通して特に私の考えが変わったこととして、次の二点があります。

一つ目は、職業に対する価値観についてです。ポスターを制作するにあたり、実際に地域で働いている方に取材を行いました。取材をした方々は何の方も生き生きとした表情で答えてくださり、仕事に対する熱意を感じることができました。その中でも、私が特に魅力を感じたことは、仕事に対するやりがいがあるという点です。取材をした方々が、自身の仕事のやりがいについて堂々と語る姿が印象に残っており、私も将来、皆様のようにならんと自分の仕事について語れる人間になりたいと思えるようになりました。また、取材をさせていただいた方々のお話に共通するものとして、収入を得ることが仕事の全てではないという考え方がありました。確かに収入を得られなければ仕事をする意味も薄れてしまいますが、それ以上に、自身の行動が誰かの役に立つことが嬉しいと話されていました。このお話を聞いて、私は今まで取り組んできたボランティア活動を思い出しました。ボランティア活動では当然、金銭的な報酬などは得られません。しかし、私は活動を通して人との「出会い」や「学び」を得ることができ、成長することができました。そのため、私は仕事とは単に収入を得るためだけにするのではなく、自分自身を成長させることができるということを学ぶことができました。

二つ目は、将来の夢についてです。私には教員になるという夢があります。しかし、友達と進路や将来について話す際、まだ夢が決まっていないという人もいました。そのため、学年の生徒全員に夢についてアンケートを実施した際、本当に協力してくれる人があるのか不安に思っていました。しかし、実際にアンケートを取ってみると、快く取材に協力してくれると答えてくれた生徒が、私の予想よりも多く現れて、本当に嬉しく思いました。取材の際にも、一人一人が自身の夢について自信を持って話している姿を見て、私も彼らに負けないうくらい夢に対する強い思いを抱くことができ、今持っている夢に自信を持つことができました。また夢を叶えるためには、それ相応の計画が必要であることも学びました。夢を持っている生徒たちは、なりたい自分の姿から逆算して、今何をすればよいのか、これからどうしていけばよいのかの計画を立てていることを知りました。私は今まで、漠然と大学に通うことだけを考えていたため、今何をすればよいのかまで細かく考えていませんでした。そのため、私は目標を達成するために計画を立て、今の自分にできることを明確にすることも大切だと学ぶことができました。最後に、私は今後の展望として、ポスターを定期的につくりたいと考えています。私は今後、将来の夢を持つ人やポスターの展示によって活動に興味を持ってくれる人が増えることで、より多くのポスターを作成できるようになると考えています。また、夢を持つ人が増加することで、それに伴って地域で働く方々にも焦点が当たるようになり、多くの人が地元企業や地域産業に触れる機会を得られるようになるかと考えています。このような状況こそがまさに、私たちが目指す地元企業や地域産業と若者が「出会う」きっかけとなり、地域で働くことの魅力を発信することで、若者が地元で働くイメージを作ることができるようになるのではないかと私は考えています。

鈴木 颯士郎

私はこれまでの活動を通して、地域をより良くしようとする取り組みで大切なこととして「人と人との繋がり」「声を聞く姿勢」「継続的な行動」という3つを学びました。昨年度、私は御殿場市の活性化を目指して仲間とともに自習室を開設しました。御殿場市には学習できる場所が少なく、勉強する場を求める中高生の声が以前から上がっていたことが背景にあります。そこで空きスペースを活用し、必要な備品を揃え、試行錯誤しながら自習室を整えていきました。しかし、この取り組みは私たちだけの力で実現したものではありません。地域の大人の方々から机や椅子の提供を受けたり、利用の呼びかけを手伝っていただいたりと、多くの協力があって初めて形になりました。自習室が開設された時、そこに集まる生徒たちの姿を見て、地域のために行動することのやりがいと責任を強く感じました。

今年度はさらに一步踏み込み、「御殿場市の担い手を増やし盛り上げていく」ことをテーマに活動しています。さまざまな職業の人々にインタビューを行い、その言葉や経験をまとめたポスターを作成し、町の掲示板や商店街に掲示する取り組みを実施しています。これは地域で働く人たちの魅力や思いを可視化し、御殿場市への愛着や興味を高めるねらいがあります。また、職業を通して地域をどのように支えているのかを知ることで、住民同士の理解が深まり、御殿場市の活性化につながると考えました。この活動をより深めるため、私は栃木県的那珂川町で、地域連携に取り組む方々の活動について学びました。また、自らリノベーションをして自習室を立ち上げた学生のもとを訪問し、資金管理、空間づくり、利用者の声の取り入れ方など、運営の裏側について詳しく話を伺いました。そこで印象に残った言葉は、「どのようにしたら継続して生徒たちが自習室を利用してくれるようになるか、満足してもらえるようになるかを考え、工夫することが大事」という言葉です。この言葉は、私たちが昨年度自習室を運営する中で感じていた課題とも重なり、今後の活動をさらに良い方向へつなげていくための考え方を直すきっかけになりました。さらに地域の人に「この町で困っていること」や「もっと良くなってほしいこと」を聞いて回る中で、世代によって地域の見え方が異なることに気づきました。例えば高校生は娯楽施設や自習室の少なさを不満に感じ、大人はお店の利用者数の減少に不安を抱えていることなどです。こうした多様な視点を知ることで、まちづくりは特定の年代のためだけではなく、全員が安心して暮らせる環境を整えることが重要だと理解しました。

これらの学びを踏まえ、今後さらなる町の活性化のために地域の声をさらに拾い上げる活動を展開していきたいと考えています。また、今年取り組んでいるポスター作成をより発展させ、将来的には多くの人目に留まり、地域の魅力を知ってもらうことで「御殿場市に帰ってきたい」という思いを持ってもらいたいと考えています。最終的な目標は、私たちの活動を通して地域に関わる人が増え、「この町で暮らすことが楽しい」と感じる環境づくりに貢献することです。活動を進める中で、私は多くの人力を借りながら一つのものをつくりあげる喜びと、人の声に耳を傾けることの大切さを深く学びました。地域の方にインタビューした時にも、自分たちでは気づけなかった問題や魅力を聞き出すことができ、この地域の方や高校生の協力なしではポスターを作成することはできませんでした。これからも人とのつながりを大切に、地域の未来を自分たちの手で少しでも良くしていきたいように挑戦を続けていきたいです。

勝又 朝日

私は去年に引き続き、この活動を通して、物事を考えるときに1つの視点からではなく、様々な視点や立場から考えることができるようになりました。その理由として、多くの人との出会いがありました。県を超えた先での出会いや地域の人との出会いなど、多くの方のおかげで違う視点を得ることができました。また、違う考え方を学ぶこともできました。

今回私は、御殿場市はやはり高齢化が目立っていますが、それ以上に少子化が進んでいるという視点に目をつけました。高齢化は多くの対策が目に見える形で進んでいますが、少子化の対策はあまり進んでいないように感じます。しかし対策を調べてみたら、自分たちが知らなかっただけで、実際はしっかりと取り組んでいることが分かりました。このように、たくさんの意見を出し、それを事実と照らし合わせ、工夫しながらここまで進めることができました。その中でも、私はポスターの一枚目が完成したときが一番印象に残っています。完成するまでにはたくさんの工程があり、私は2つのことを深く学びました。

1つ目は、高校生に対して「夢」についてのアンケートを行うときに、自分が相手に何て答えてほしいか、質問の意図は何か、それをわかりやすく質問にすることです。文章によっては捉え方が変わってしまう可能性があるのも、とても難しかったです。そこで、質問文を簡潔にすることで、何を聞いているのかがわかりやすいようにしました。しかし、夢について聞くときは、相手が聞かれたくない内容も多くあります。そこで、相手に強制させないように自由記述を追加したり、匿名性を持たせたりしました。また、最初に答えやすい質問を入れ、徐々に深い内容にすることで、回答者が答えやすい順番になることを意識しました。

2つ目は、インタビューの仕方についてです。初めて行うときは、1つの質問に対して相手が答えてくれても、そこで深掘りせず淡々と次の質問に進んでしまっていました。そのため話がすぐ途切れたり、話が広がらず、一方的にただ質問をしており、インタビューとは違うものになってしまいました。それを避けるために、2回目以降のインタビューからは、相手と会話をしているような感覚でインタビューを行うことを心掛けました。そうすることで、相手も自分も堅くなくリラックスした状態で、たくさんの質問をすることができました。また、答えてくれた内容に基づいて質問をすることで、内容を深掘りできたり、もっと知りたいことや、まだ不透明だった部分を明確にすることができました。この活動を進めていく中で、私が特に感じたのは、「地域の課題は地域の方や先生、他の場所で探究をしている方など、たくさんの方々の力がなければ解決できない」ということです。ポスター制作やアンケート・インタビューなど、これらのことはすべて私たち学生だけの力では到底成し遂げられませんでした。地域の方々が自分の経験や御殿場市に対する思い、どうなってほしいかなど、多くのことを語ってくれたからこそ、地域の人と高校生の「つながり」をポスターにまとめることができました。多くの方々に支えていただいていることを改めて深く実感し、その存在の大きさと大切さを強く感じました。私は今後、地域の人とまちづくりについて話し合う「リアルな交流の場」をもうけて、もっと地域のためになる探究をしていきたいです。また、今回のポスターが誰かの「気づき」や「出会い」を生み、その積み重ねで御殿場市の担い手を増やすことにつながればいいなと思います。私自身も、これから地域とのつながりを大切にしながら過ごしていきたいと思っています。



夢をツナグまちポスターの展示



御殿場で働く人へのインタビュー

実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF あり

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	関東・甲信越
---------	---	---------	------	------	--------

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立中央青少年交流の家	修了日	2024/7/15	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	観光をテーマに、株式会社時之栖さんでフィールドワークを行った。時之栖さんが取り組む魅力発信の方法を学び、今後より多くの人々が御殿場に足を運んでくれるためにはどうすれば良いか、課題を探究した。				
実践活動期間	2025/7/26 ~ 2025/11/28				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	御殿場市役所	活動全般の支援		
	氏名	御殿場市市民協働課			
	所属	那珂川町役場	フィールドワークの受け入れ		
	氏名	那珂川町地域おこし協力隊			
	所属	御殿場南高校、みなみ保育園など	インタビューへの協力		
氏名	御殿場市内で働く皆さん				
協力者総数	20名	協力団体数	6団体		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 20 日

事前:準備・打合せ	10日	本番:メインの活動	7日	事後:ふりかえり・報告	3日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
その他	取材された	1回	地元のラジオ局から取材を受け、放送された。
その他	自ら発信	3回以上	作成したポスターを学校で展示してもらった。
SNS	取材された	3回以上	学校の探究活動サイトに掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/26 ~ 7/27	①事前学習・打合せ等	栃木県那珂川町	フィールドワークを行い、地域おこし協力隊の方とまちづくりについて意見交換をした。
8/21 ~ 10/1	①事前学習・打合せ等	御殿場南高校	プロジェクトについて意見交換を行い、進め方や協力をお願いする人などを決定した。
10/22 ~ 10/22	②実践活動本番	御殿場南高校	高校生の夢について、学校の2年生145名にアンケートを行い、結果を分析した。
10/24 ~ 10/31	②実践活動本番	御殿場南高校・みなみ保育園など	夢をツナグまちポスター制作を開始。高校生と地域で働く人へのインタビューを行った。
11/25	③事後打合せ・報告会等	御殿場南高校	完成したポスターを学校に展示して、生徒や先生へと観てもらい意見をもらった。

「甲子園」という夢を
指導者になって
何十年も目指したい。

生徒と一緒に自分も
成長していきたい。

生徒に頼ってもらえるような
先生になりたい。

たくさんの方の応援をもらえる
地元で働きたい。

御殿場 高校生



多くの生徒に健康で

充実した生活を

送ってほしい。



高校教師になって

生徒と一緒に

甲子園に行きたい。

やりがいは生徒の
成長した姿を見ること。

やりたいことを本気でやって
輝いてくれる生徒を
見ることが好き。

関わっている生徒全員の
人生を変える可能性のある職業。

働くうちに
御殿場が大好きになった。

御殿場南高校 教員





生まれ育ったこの町に
恩返しをしたい。

御殿場の子どもたちに
安心と笑顔を届けたい。

夢は小さな未来を
そっと支えること。

「おかえり」が聞こえる町で
子どもたちと生きていきたい。

御殿場の高校生

子供の笑顔で

明日も頑張ろう

と思える。



保育士になって

御殿場を

支えたい。

子供が好きだから続けられる

手をいっぱい広げて

飛び込んで来る園児の姿が

日々のエネルギーになる

一番の魅力は園児の成長を

間近で感じられること

園児と安全に一日を

過ごすことが

使命でありやりがい

みなみ保育園

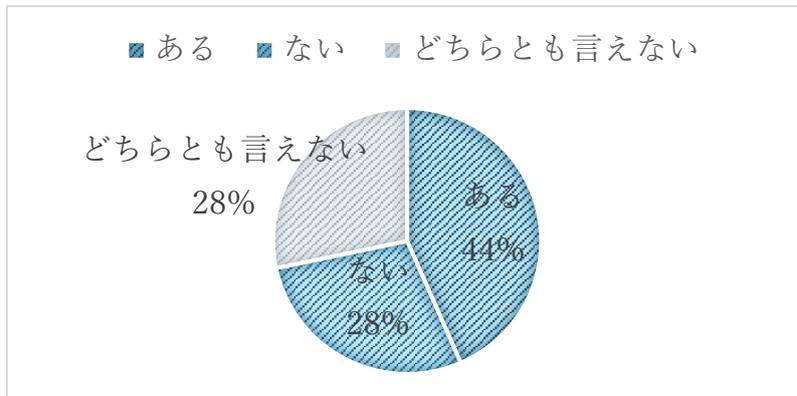
職員



高校生の「夢」についてのアンケート調査（実施日：令和7年10月22日）

対象：御殿場南高校の2年生（145名）

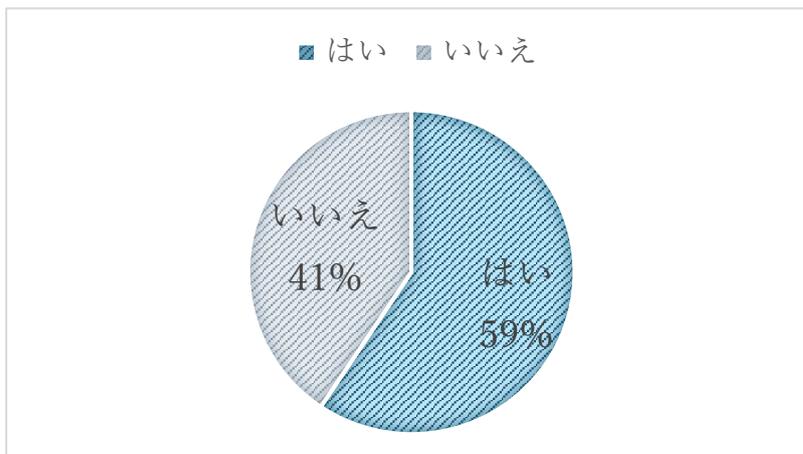
1. 現在、将来の夢はありますか。



2. あると答えた方に聞きます。将来の夢はなんですか。

教員/保育士/看護師/海外に家を持って働く事/警察官/イラスト関係/消防士/裁判官/
TVディレクター//声優/ディズニーで働くこと/幸せな家庭を築く/図書館司書/イラスト関係
薬剤師/食品や化粧品の研究/スポーツトレーナー/国際消防士/理学療法士/農家/ヘアメイク
音響系/スポーツショップの店員/ロケットを作る/社長/スポーツ用品開発/SE/海洋関係 など

3. あると答えた方に聞きます。それはあなたの地元で叶えられる夢だと思いますか？



4. はいと答えた方に聞きます。（地元で叶えられる）理由を教えてください。

地元の学校で働けば良いから/御殿場にある職業だから子供が可愛いから
御殿場市内の病院で働きたいと思っているから/ /公務員だから/地元小学校があるから
地元にもある職業だから/消防があるから/どこでもできるから/地方にもテレビ局があるから
叶えるまでのプロセスを踏む環境が地元でも揃っているから
地元高校があるから/御殿場でも可能性があるかもしれない/地域の良さを伝える事ができる
自分自身がその土地に馴染みがあり困った時など頼る事ができるから
地元のクラブとかでも働けるから/自然豊富だから/イベントが少なからずあるから
会社建てればなれるから/多種多様な沢山の企業があるから など

5. いいえと答えた方に聞きます。(地元で叶えられない)理由を教えてください。

海外に行きたいから/大学が近くにないから/該当する制作会社がない

ある程度都会じゃないと勉強が難しいかなと思ったから

地元にはない会社で、都市部での仕事が基本だから

身近な場所で出来る仕事じゃないと思うから/就職先もあまりないように感じるから

大学が地元にはない有名な学校がなかったり業界の人と繋がりづらいから

企業が見当たらないから/地理的問題/仕事が少ないと思う など

6. アンケート結果の分析

回答した145名のうち、「将来の夢がある」と答えたのは63名(約43%)で、半数近くが明確な夢を持たないことがわかりました。夢を持つ人のうち、「地元で叶えられる」と回答したのは38名(約60%)で、「叶えられない」26名(約40%)を上回りました。地元での実現可能性を感じる人が多い点は、地域への帰属意識が一定程度あることを示していると考えます。肯定理由では「地元にも職場がある」「どこでもできる」「自分次第で叶えられる」など、職業の存在や自分の努力への信頼があがり、地元で働く現実的なイメージを持っています。

一方で、「叶えられない」と答えた人の多くは「大学や専門学校が近くにない」「企業や業界が地元がない」「都会で学ぶ必要がある」といった回答をしていて、地元の教育機関や産業の限界が課題として浮き彫りになったと考えます。特に都市部の職業を志望する人ほど、地元での実現を難しく感じていました。以上のことから、アンケートに答えた多く人は地元で働く可能性を前向きに捉えつつも、専門的な学びや多様な職業に触れられる環境が不足している現状がわかりました。